

三重県へき地医療通信

第6号

発行元

三重県

へき地医療支援機構

(健康福祉部医療政策室)

電話 059-224-3370

発行日

平成18年1月10日

医療ネットみえ
～医療機関案内～

ホームページで、今、診てもらえる救急医療機関や、病名、所在地、専門外来など目的にあった三重県のお医者さん、歯医者さんが検索できます。
医療ネットみえホームページアドレス URL: <http://www.qqpref.mie.jp/>
携帯からもアクセスできます。携帯 URL: <http://www.qqpref.mie.jp/k/>

医師に確保に関する取組み

医師の確保について、県医療審議会の地域医療対策部会において、関係機関(県、市町、三重大学、各医療機関など)が取りくむべき方策について、年度内にとりまとめる方向で議論がすすまれています。平成17年7月27日提言)

医師の確保に向けた緊急提言

県医療審議会地域医療対策部会
医師の確保に向けた緊急提言

平成18年へき地医療支援機構は4年目を迎えます

今年には国の第10次へき地保健医療計画が施行される年となります。三重県へき地医療支援機構も、理念のもと引き続き、へき地医療支援体制の充実を図りたいと考えております。本年もどうぞよろしくお願いたします。

【三重県へき地医療支援機構理念】

「三重県へき地医療支援機構は、立ち止まらない地域医療を实践されている医師・看護師をはじめとする人々に深い敬意を払い、支援活動を通して、地域住民に質の高い医療の継続的かつ普遍的な提供を目指します。」

へき地医療研修会報告

紀南病院および紀和町(現熊野市)保健センターにおいて、平成17年度三重県へき地医療研修会を開催し、「魅力ある地域医療研修のために」をテーマに、へき地医療関係者ら計10職種77名が参加しました。

参加者からは、「研修についてよい意見を聞くことができた」、「学生がもっと参加できれば」、「ワークショップを行ったが、後に生かせるか?」など意見が出されました。

「ご参加ご協力頂きました皆様には厚く御礼申し上げます。」

平成17年度第1回三重県へき地医療研修会 日程表

テーマ:「魅力ある地域医療研修のために」

1日目 8月27日(土) 【紀南病院】

特別講演
愛知医科大学へき地医療対策協議会会長
名古屋大学医学部附属病院長 伴信太郎 先生

ワークショップ
(社)地域医療振興協会 地域医療研修センター
鈴木 孝明 先生

2日目 8月28日(日) 【紀和町保健センター】

A 活動報告 ※紀和診療所見学会
紀和町立紀和診療所 坂倉 健一 先生
※ 紀和診療所の活動報告、出張診療所も含めた見学会

B 実地研修
日本赤十字社三重県支部 組織振興課長 植原 良 指導員
※ 自動体外式除細動器(AED)の使用に関する講習会



紀南病院でのワークショップの様子

紀和診療所と紀和町の風景

～第10次へき地保健医療計画にむけて～

へき地保健医療対策検討会報告まとまる

報告はへき地医療情報ネットワークで閲覧できます。

無医地区等における医療を提供する体制を確保するために実施されてきた第9次へき地保健医療計画が平成17年度に終了することから、第10次へき地保健医療計画(平成18年度～22年度)に資することを目的に厚生労働省において検討会が開催されました。引き続きへき地・離島保健医療対策を実施することが重要となり、報告がまとまりました。また、鳥羽市立神島診療所野正孝所長が検討会委員を務められました。

報告書概要および全文は、へき地医療情報ネットワークホームページ(<http://www.hakchi.net/>)の文書ライブラリーでご覧いただけます。

体験学習ありがとうございました

8月18日(木)と19日(金)、夏休みを利用して、へき地医療体験実習を、鳥羽市立神島診療所、町立南伊勢病院、大台町国民健康保険報徳病院で開催し、自治医科大学生、県医師修学資金貸与者およびへき地医療に興味のある医学生、学生計8名が参加しました。次を担う医師の育成にむけて、こうした取り組みを今後も継続していきます。今後ともご協力をよろしくお願いたします。

平成17年度上半期代診実績

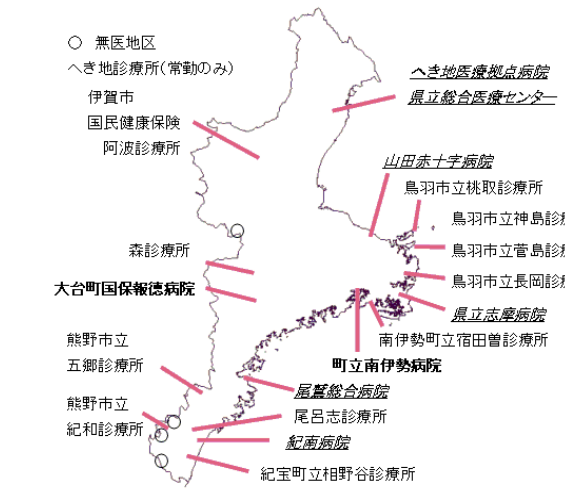
平成17年度上半期代診支援は、依頼に対し100%拠点病院より派遣いただきました。ありがとうございました。

【内訳】県立志摩病院10回、山田赤十字病院3回、尾鷲総合病院2回、計15回

三重県のへき地医療状況

無医地区(平成16年12月末調査)は4ヶ所【津市(旧美杉村) 太郎生地区、熊野市(旧紀和町) 西山地区・上川地区、紀宝町浅里地区】となっています。

市町村合併にともない、該当するへき地医療機関の名称が変更されています。



第1回東海へき地医療研究会

11月5日(土) 愛知県中小企業センターにおいて愛知・岐阜・三重3県の支援機構主催で第1回東海へき地医療研究会を開催しました。

社団法人地域医療振興協会へき地医療支援センター長杉田義博先生の特別講演に続き、研究発表を行いました。

本県からは2題、熊野市立紀和診療所坂倉健一先生(地域診療所に通院中の高齢者および超高齢者の血圧の特徴について)、県立看護大学小林文字先生(ルーラルナーズの教育プログラムの開発)の発表がありました。平成18年度は、三重県で開催予定です。お疲れ様でした。

医師臨床研修 地域保健・医療」始まる

平成16年度から診療に従事しようとする医師は、医師免許を取得した後に、2年間の臨床研修を受けなければならないことになりました。この制度においては特定の医療現場の経験として、研修医2年目に1ヶ月間の「地域保健・医療」が必修科目に指定されており、その対象機関が「へき地・離島診療所、中病院・診療所、保健所、介護老人保健施設、社会福祉施設、赤十字血液センター、各種検診・健診の実施設等」となっています。

平成17年度については、**神島診療所、菅島診療所、長岡診療所、紀和診療所**が研修医を受入れており、計17名が全地・離島医療の現場を経験しました。

鳥羽市営定期船

問合せ先) 三重県健康福祉部医療政策室
救急・へき地対策グループ
電話 059 224 3370
E-mail: ryosogei@mie.jp
健康福祉部ホームページ
保健・医療福祉総合情報
URL: <http://www.wperfmie.jp/>
IRIOS: syugaku.bosjwhm

医師修学資金等貸与者募集

三重県では、へき地医療、小児・産婦人科医療等に携わる意思のある医学生、大学院生、臨床研修医専門研修医を対象に修学資金を貸与します。また、へき地医療機関等へ転任する医師に対しても研究資金を貸与します。いずれも一定期間、県内指定医療機関等で勤務した場合、返還が免除されることとなります。平成17年12月末現在、修学資金を医学生5名、研究資金を医師4名に貸与しています。